

**地域おこし協力隊員募集
及び活動状況―先進地実
態調査研修
大分県竹田市**

平成30年7月27日
復興・地方創生対策特別委員会委員
12名、事務局1名、次世代定住課職
員3名、協力隊員2名

地域おこし協力隊とは、3年間そ
の地域に居住し、地場産品の開発、
農林業への従事や住民の生活支援な
どを行いながら地域への定住、定着
を図る制度。現在、本村では8名の
隊員が活動している。

竹田市は平成22年から、この事業
を始めて、9年間で118名の協力
隊員数になっている。研修では、農
村回帰助成制度の補助事業や奨励金
事業等の研修をした。

今後、竹田市での研修を生かし、
地域おこし協力隊員を募集し、多く
の協力隊員が、本村に定住、定着で
きるように取り組んでいきたい。



熱心に質問する橋本委員長

竹田市農村回帰助成制度

- ①空き家活用奨励金
- ②空き家改修事業補助金
- ③空き家バンク登録前の空き家改修事業補助金
- ④お試し暮らし短期滞在費助成金
- ⑤移住奨励金
- ⑥Uターン促進住宅取得・住宅改修事業補助金
- ⑦三世代同居等定住支援事業補助金

※農村回帰の推進とリンクする総合戦略

子育て定住促進住宅の建設

立野ダム対策特別委員会

平成30年7月13日
立野ダム対策特別委員会委員5名、
村長、副村長、議長、副議長、事務
局1名、建設課職員2名

今年度からダム関連工事で発生す
る掘削土の受入を開始した沢津野土
捨て場を視察した。沢津野の土捨て
場は搬入土40万m³を受け入れ可能だ。
今回は犀角山20万m³・本体工事左岸
側掘削土20万m³を受け入れる。

本体工事予定地では、立野ダム工
事事務所の田脇工務課長より進捗状
況の説明を受けた。予定地の上流に
ある熊本地震後に発生した立野ダム
サイト断層を間近に見て、あらため
て熊本地震のエネルギーの大きさに
驚いた。

視察終了後は立野ダム工事事務所
に移動し、立野ダム建設事業と村の
地域整備計画について説明を受けた
後、意見交換を行った。委員からも
活発な意見が出された他、ダム事務
所からはダムの特性を活かして完成
後の利活用も検討しているという意
見等があった。



立野ダム着工式のようす

立野ダム着工式

平成30年8月5日ダム本体工事着
工式が執り行われ、立野ダム対策特
別委員5名、議長、副議長が出席。



ダム職員による説明